

教育大綱関連事業の令和2年度の成果と取り組みの方向性について

◆幼児期の取り組み

方針1 すべての子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します

(決算額: 15,853,089 千円)

<主な事業>

◎家庭児童相談事業(すくすく子育て課)

目的	家庭の児童養育における悩みの解消や児童虐待の解決を図ります。			R 元決算
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> 家庭相談員等が電話、面接、訪問等により、子育て等の悩みの相談に応じます。 児童虐待通告を受けたときには職員が訪問し、児童の安全を確認するとともに、必要に応じて保護者に対して注意喚起を行います。 児童虐待の発生予防、早期発見のため、関係機関と連携します。 			12,526 千円
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	電話・面接・訪問などによる 相談件数	児童虐待に関する相談対応 世帯数	R2 予算現額 26,247 千円
	予定 (目標)	9,000 件	250 世帯	R2 決算
	実績	9,037 件	236 世帯	23,212 千円
	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から、家庭児童相談事業の相談体制等を拡充し、子ども家庭総合支援拠点を設置しました。 養育相談や虐待通告に対し、必要に応じて関係機関との連携を図りながら、家庭訪問や電話相談等の対応を行いました。 <家庭こども相談の概要> <ul style="list-style-type: none"> 家庭相談員の体制 週5日(6名が輪番で勤務) 児童虐待相談対応世帯数 236 件 (内訳) 就学前 106 件 小学生 89 件 中学生 31 件 その他 10 件 虐待以外の相談世帯数 135 件 			R3 当初予算 26,958 千円
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 家庭相談員が電話、面接、訪問等により、子育て等の悩みの相談に応じます。 児童虐待通告を受けた際には職員が訪問し児童の安全を確認するとともに、必要に応じて保護者に対して注意喚起をします。 			R4 実施計画 (概算) 30,200 千円
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭総合支援拠点において、支援を必要としているこどもやその世帯等への訪問、見守りを行うとともに、様々な支援策から適切なサービス提供につなげるなど、きめ細かな対応を継続的に行います。 学校や保育所、児童相談所などの関係機関とのさらなる連携強化を進めていきます。 			

◆義務教育期の取り組み

方針2 新しい時代を生きる子ども一人ひとりの確かな学力を育みます（決算額:3,060,819千円）

<主な事業>

◎GIGAスクール端末整備事業（教育研究所）

目的	国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台端末の整備を推進します。		
手段・手法	・学校における1人1台環境を実現するための教育 ICT 環境の整備を行います。		R元決算
R2年度の 実績(成果) 等	指標	GIGAスクール端末台数	—
	予定 (目標)	18,660台	R2 予算現額
	実績	18,660台	1,248,747千円
	<p>・GIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台の端末を整備しました。 また、同端末を活用したオンライン学習の早期実現と授業での積極的な 端末の活用を推進するため、GIGAスクールコーディネーターとGIGAス クールICT支援員を配置しました。</p> <p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備台数 18,660台 内訳:児童生徒 17,447台 教員用 1,186台 他拠点分 27台 ・GIGAスクールコーディネーター 1名 期間:10月～3月末日 ・GIGAスクールICT支援員 5名 期間:10月～3月末日 		R2 決算
R3年度の 取り組み	— (令和2年度で事業終了)		1,245,735千円
R4年度の 方向性	—		R3 当初予算
			—
			R4 実施計画 (概算)
			—

<主な事業>

◎教育用コンピュータ整備事業（教育研究所）

目的	教育の情報化を推進するため、教育ネットワークに接続するコンピュータ機器等の整備と保守を行います。				
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のコンピュータ教室等に設置した教育用コンピュータの保守管理を業者に委託します。 ・校務用及び教育用コンピュータを教員数や児童生徒数にあわせて整備します。 				R 元決算
					307,610 千円
R2 年度の 実績（成果） 等	指標	保守管理 コンピュータ台数	校務用 コンピュータ台数	教育用 コンピュータ台数	R2 予算現額
	予定 (目標)	22,428 台	1,236 台	21,192 台	370,479 千円
	実績	22,646 台	1,236 台	21,410 台	R2 決算
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のコンピュータ教室等に設置した教育用コンピュータ及び周辺機器の更新、保守管理を行いました。 ・ICT 機器を有効活用するため、ICT 支援員を配置しました。 ・校務用コンピュータの更新、保守管理を行いました。 ・中学校 2, 3 年生の全クラスにプロジェクタを整備しました。 				369,110 千円
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・国の GIGA スクール構想に基づき児童生徒1人につき1台整備した、コンピュータを運用管理します。 ・小中学校のコンピュータ教室等に設置した教育用コンピュータ及び周辺機器の更新、保守管理を行います。 ・整備した各種機器類を有効に活用し、授業を円滑に行うため、各小中学校に ICT 支援員を配置します。 				R3 当初予算
					349,452 千円
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の情報化を推進するため、1人1台端末及び周辺機器の運用管理を行うとともに、ICT 支援員を継続して配置します。 				R4 実施計画 (概算)
					329,000 千円

<主な事業>

◎学力向上対策推進事業（指導室）

目的	児童生徒への学習支援を行うとともに、特に小学校の若手教員の指導力を養うことで、総体的に学力の向上を図ります。		
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校において「放課後寺子屋やまと」「夏休み寺子屋やまと」「放課後子ども教室(ひろば)」を開催します。 ・小学校教員の指導力向上のための支援を行います。 ・中学校において「放課後中学校寺子屋やまと」「長期休業期間中における学習支援」を開催し、授業中、放課後及び長期休業期間中の学習支援を行います。 		
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	小学校放課後寺子屋やまとの開催校	中学校放課後寺子屋やまとの開催校
	予定(目標)	19校	9校
	実績	19校	9校
	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校において、学校の空き教室等を活用した「放課後寺子屋やまと」「放課後子ども教室」を開催し、児童の学習支援を行いました。 ・経験年数の少ない教員に対する指導を実施し、授業力・指導力の向上を図りました。(授業参観・面談 5,108回) ・全中学校において、「放課後寺子屋やまと」を開催し、授業中及び放課後に生徒の学習支援を行いました。 ・中学校において、「冬休み寺子屋やまと」を開催し、長期休業期間中における学習支援を行いました。 		
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターと学習支援員との運営による「放課後寺子屋やまと」と、チーフパートナーとパートナーとの運営による「放課後子ども教室(ひろば)」の日程を調整し、平日週5日、いずれかの事業を開催します。 ・小学校にて「夏休み寺子屋やまと」を開催します。 ・指導主事が学校へ出向き、学校の研究や授業の指導等について助言します。 ・コーディネーターによる、経験の浅い小学校教員に対する指導を継続的に実施し、授業力の向上を図ります。 ・中学校において、少人数指導等非常勤講師(英語・数学)、学習支援コーディネーター、学習支援員を各校に配置し、生徒の学習支援を行います。 ・中学校にて「長期休業期間中の学習支援」を行います。 		
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、小中学校において「放課後寺子屋やまと」「夏休み寺子屋やまと」「放課後子ども教室(ひろば)」等を開催する中で、全児童生徒が参加しやすい環境の整備と、より細やかな支援体制の整備を目指していきます。 		

R 元決算	
	139,120 千円
R2 予算現額	
	227,093 千円
R2 決算	
	206,546 千円
R3 当初予算	
	233,180 千円
R4 実施計画(概算)	
	233,000 千円

<主な事業>

◎小学校大規模改修事業（教育総務課）

目的	児童及び学校関係者の学校生活における教育環境の向上を図ります。			
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> 建設年度及び現在の状況を総合的に判断し、学校施設の改善や設備の新設・更新を行います。 文部科学省「学校施設環境改善交付金」の対象事業となるものについては、「施設整備計画」を策定し、整備を行います。 			R 元決算 281,867 千円
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	小学校大規模施設改修等の 整備・改善件数	施設整備計画	R2 予算現額 189,253 千円
	予定 (目標)	7 件	1 件	R2 決算 185,870 千円
	実績	3 件	1 件	R3 当初予算 15,000 千円
	・市立小学校における老朽化した施設の整備・改善を行いました。 <事業内容> ・外壁改修工事(上和田小) ・体育館屋根及び照明設備改修工事(下福田小、文ヶ岡小) ・プール受水槽改修工事(文ヶ岡小) ・プールろ過装置交換工事(桜丘小) ・防火シャッター改修工事(北大和小、林間小、大和小、南林間小、中央林間小) ・給水設備改修工事(柳橋小)			R4 実施計画 (概算) 129,000 千円
				など
R3 年度の 取り組み	・市立小学校における老朽化した施設の整備・改善を行います。 <事業内容> ・防火シャッター改修工事(草柳、西鶴間、深見、上和田)			
R4 年度の 方向性	・建物の経年劣化が進んでいるため、国の交付金を活用しながら、計画的に改修を実施していきます。 ・35 人学級化に対応するため、特別教室を普通教室に改修する工事等を実施していきます。			

<主な事業>

◎いじめ等対策事業（指導室）

目的	市立小中学校におけるいじめの撲滅を目指すとともに、子どもたちが安心して学校生活を送れるような学校づくりに取り組みます。					
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止を学校指導者・地域で考え、行動に移せるよう教育フォーラムを開催します。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止) 学級の状態や個人の成長の様子を客観的に把握し、より良い集団づくりやいじめ・不登校の防止に役立てるために学級集団アセスメントテストを実施します。 児童支援中核教諭に伴う非常勤講師を配置します。 全小中学校に対して児童・生徒指導研修会(訪問研修)を実施します。 匿名報告・相談アプリ「STOP it」を中学校全生徒が使用できる環境を整備します。 					R 元決算
						19,706 千円
						R2 予算現額
						20,276 千円
						R2 決算
						18,347 千円
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	リーフレットの 配布枚数	フォーラムの 開催回数	1人1台端末用 アプリケーション 登録率	スマートフォン用 アプリケーション 登録率	R3 当初予算
	予定 (目標)	4,500 枚	1 回	100%	8%	16,823 千円
	実績	4,500 枚	0 回	100%	6.36%	R4 実施計画 (概算)
	<ul style="list-style-type: none"> 全小学校において指導体制の充実を図るため、児童支援中核教諭を校内から選任し、その授業代替要員として非常勤講師を配置しました。 大和市のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ問題対策連絡協議会や、いじめ問題対策調査会を定期的に開催しました。 いじめ・不登校の更なる減少を図るため、全小学校5年生及び全中学校1年生を対象に学級集団アセスメントテストを実施しました。 匿名報告・相談アプリ「STOP it」を中学校全生徒が使用できる環境を整備しました。 					16,900 千円
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 小学校における児童指導及び校内支援体制の充実を図るため、小学校全校に児童支援中核教諭を配置します。 中学校全生徒が使用できる匿名報告・相談アプリ「STOP it」を活用し、いじめ等の問題解決に努めます。 					
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校と連携していじめの早期発見・早期対応を図っていきます。 					

<主な事業>

◎放課後児童クラブ事業(こども・青少年課)

目的	保護者の就労や疾病等により放課後等に家庭において健全な育成を受けられない児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ります。			
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の余裕教室等を活用し、資格を有する支援員等により児童クラブの運営を行います。 ・公営児童クラブのない学区(南林間小学校、西鶴間小学校)については、民営の児童クラブに業務を委託します。 ・公営及び委託民営児童クラブに入会できない児童(入会保留児童)を受け入れた他の民営児童クラブについては、その人数により、市から運営補助金を交付します。 			
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	入所児童数 (公営)	入所児童数 (民営委託)	入所児童数 (民営補助)
	予定 (目標)	1,500 人	148 人	282 人
	実績	1,591 人	123 人	269 人
	<ul style="list-style-type: none"> ・公営児童クラブ17クラブ(43 単位)を運営するとともに、民営児童クラブ2クラブ(3 単位)の委託を行ったほか、民営児童クラブ 6 クラブ(8 単位)に運営補助金を交付しました。 ・入会児童数が増加しましたが、学校の特別教室や民営児童クラブを活用することにより、希望するすべての児童を受け入れました。 			
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、公営児童クラブの運営、民営児童クラブの委託を行うとともに、入会保留児童を受け入れた民営児童クラブへ運営補助金を交付します。 			
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の就労ニーズの高まりなどにより、今後も入会希望の児童数の増加が想定されることから、学校や教育委員会、民営児童クラブと居室の確保について調整を行うとともに、人材の確保及び保育の質の向上に努めます。 ・支援が必要な児童については、臨床心理士と保育士による児童クラブ巡回訪問を実施するとともに、こども部内及び関係機関との情報共有・連携を図りながら対応にあたっていきます。 			

R 元決算	401,934 千円
R2 予算現額	548,247 千円
R2 決算	502,677 千円
R3 当初予算	501,154 千円
R4 実施計画 (概算)	491,000 千円

◆ 幼児期～義務教育期～青年・成人期の取り組み

方針7 健康に関する教育を推進します

(決算額:366,176千円)

<主な事業>

◎母子保健相談指導事業(すくすく子育て課)

目的	安全な出産を迎えるために母体の健康管理を行うこと、出産後の健康管理や育児・健康面における情報提供や相談に対応することで、子育て家庭の支援を行います。					
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届を受理し、母子健康手帳を交付します。 ・妊娠・出産に向けた知識の普及啓発のための各種教室を開催します。 ・2歳児歯科相談および育児相談を開催します。 ・1歳6か月児健康診査後のフォロー教室として「おやこ教室」を開催します。 ・「子育て何でも応援メール」を、LINE, Twitter, メールで配信します。 					
R2年度の 実績(成果) 等	指標	プレママ・パパ教室、イクメン講座 参加者延べ数	もぐもぐ教室 参加者数	1歳児育児 教室参加者数	2歳児歯科 相談利用者数	R2 決算
	予定 (目標)	1,440人	600人	500人	400人	3,919千円
	実績	0人	0人	0人	93人	R2 予算現額
	※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・一部中止となりました。 ・妊娠届があった妊婦に、母子健康手帳を交付しました。 ・「子育て何でも応援メール」について、従来からのメールによる配信だけでなく、7月からLINE, Twitterの配信を開始し、充実しました。 (子育て何でも応援メール配信者延数:5,695人(R3年3月末現在))					5,720千円
R3年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届を受理し、母子健康手帳を交付します。 ・妊娠・出産に向けた知識の普及啓発のための「プレママ・パパ教室」「イクメン講座」を開催します。 ・1歳6か月児健康診査後のフォロー教室として「おやこ教室」を開催します。 ・保護者等が子育て情報を得るためのツールとして活用できるよう、子育て何でも応援メールの周知に努めていきます。 					R2 決算
R4年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期から子育て期におけるさまざまな情報を細やかに提供して不安軽減を図るとともに、子育て家庭が健やかに育児ができるよう、引き続き積極的に支援を行います。 					4,896千円
						R3 当初予算
						6,368千円
						R4 実施計画 (概算)
						6,200千円

方針8 あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します

(決算額:863,510 千円)

<主な事業>

◎図書館管理運営事業（図書・学び交流課）

目的	図書館の円滑な管理運営を行います。			
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を活用し、図書館の管理運営を行います。 図書館の運営に必要なインフラの管理をします。 			R 元決算
				561,929 千円
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	指定管理者との協議回数		R2 予算現額
	予定 (目標)	12 回		591,938 千円
	実績	9 回		R2 決算
	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者制度を活用し、市内 3 館の図書館の管理運営を行いました。 令和 2 年度の来館者数は、大和市立図書館が入る文化創造拠点シリウスは約 135 万人、中央林間図書館は約 47 万人、渋谷図書館は約 10 万人となりました。 			581,691 千円
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、大和市立図書館、中央林間図書館及び渋谷図書館の管理運営を行います。 			R3 当初予算
				591,229 千円
R4 年度の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 大和市立図書館、中央林間図書館及び渋谷図書館を同一の指定管理者による運営とすることで、一体的な図書館運営を目指すとともに、図書館城下町施策の推進に努めます。 学校図書館との連携強化を図っていきます。 			R4 実施計画 (概算)
				550,000 千円

<主な事業>

◎健康都市大学事業（図書・学び交流課）

目的	学びを通じた、市民の新たな居場所づくり、市民どうしのつながりの創出を図るとともに、市民の充実した学習環境を整備します。					R 元決算
手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> 市や外郭団体などが実施する講座等に共通のポイント制度を設定するほか、当事業を構成する多種多様な講座を広く周知することなどにより、市民の学びの意欲向上を図ります。 市民が講師を務め、市民どうしで学び合える場「市民でつくる健康学部」の講義を実施します。 					4,436 千円
R2 年度の 実績(成果) 等	指標	市民講師 登録者数	「市民でつくる 健康学部」講 座開催回数	ガイドブック 発行回数	PR手段数	R2 予算現額
	予定 (目標)	120 人	241 回	2 回	9 種類	6,025 千円
	実績	118 人	96 回	1 回	17 種類	R2 決算
	<ul style="list-style-type: none"> 市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」を運営しました。 市や外郭団体などが実施する講座等の情報をまとめたガイドブックの発行や、受講ポイントの管理運営を行いました。 					4,052 千円
	<事業内容> <ul style="list-style-type: none"> 「市民でつくる健康学部」の受講者数 延べ 2,419 人 健康都市大学ガイドブック発行部数 3,000 部 					R3 当初予算
R3 年度の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 市民が講師を務め、市民どうしで学び合える場「市民でつくる健康学部」の講義を実施します。 市や外郭団体が実施する講座等の情報をまとめたガイドブックの発行や受講ポイントの管理を行います。 					6,495 千円
R4 年度の 方向性	より多くの市民が学ぶ楽しさに触れ、学習意欲が継続されるよう、講座の工夫ときめ細かな情報提供に努めていきます。					R4 実施計画 (概算)
						5,200 千円